

寮歌祭事務局の苦悩

佐賀市 大宅公一郎 67

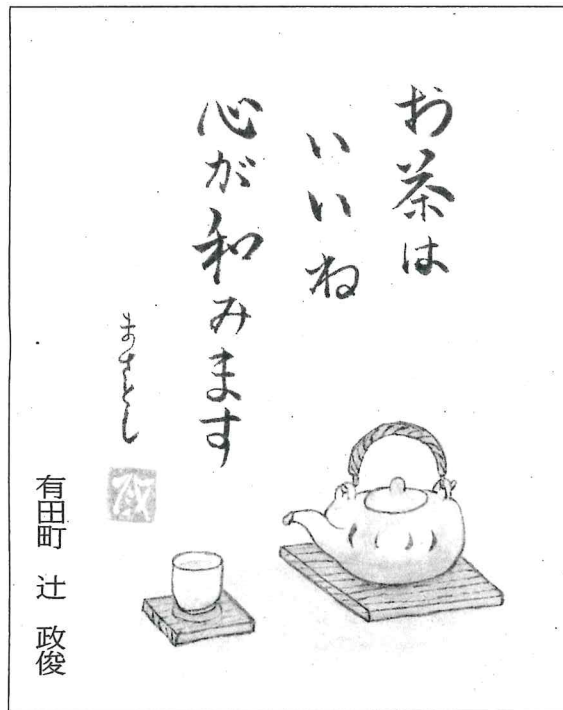
11月14日に開催を予定していた「第28回佐賀県青春寮歌祭」をコロナウィルス感染防止のため中止とした。県内では収束に向かっているのに決断は時期尚早と思われたが、寮歌祭に合わせて同窓会が開催されたり、県外から遠路参加される方々も多く、土壇場での中止では迷惑を掛けるからである。

会場のエスプラッツホールに約25校、約300名の老若男女が集い、ステージ上ではお互いに肩を組み、寮歌、校歌、応援歌を歌う。どうしても飛沫感染の恐れが解決できない。

県青春寮歌祭は、平成5年2月に佐賀新聞投書欄に「北大野球部が唐津に春合宿に来るので練習相手を求

む」との投書を契機に、まず北大同窓会が立ち上がり、その勢いで佐賀県青春寮歌祭が始まった。昨年の大水害では県内の被害が甚

大で、多くの人々が復旧に尽力されている中、初めて寮歌祭の中止を考えた。しかし、関西学院大学が初出場を予定していた。アメリカンフットボールの危険タックル問題を巡り、日大同窓会の故大草支部長がステージ上で深々と頭を下げてわびられていたから、関西学院大学の初出

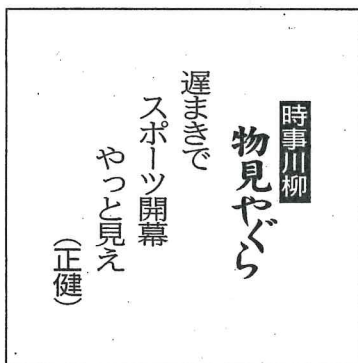


有田町 辻 政俊

場は各校同窓会が垣根を越えて、ワンチームになれるだろうと感じた。さらに、県内の水害を心配していただいた各地からの参加者に、

佐賀へ来ていただくことが、復興への後押しにもなると考え、開催を決断した。

NHKの朝の連続ドラマ「エール」では、早稲田大学の応援歌「紺碧の空」の誕生秘話が熱く語られた。「応援歌を聞いて頑張れる人がいる」。それだけに出場各校は、今年は一層母校の応援歌を高らかに歌いたいと思っているだろう。申し訳ないが来年、今年の分まで倍にして応援歌を歌ってほしい。



(正健)